

特集：私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて

# 「教育システム情報学マップ」の UX デザイン

米谷 雄介\*

## UX Design of an “iSE Map”

Yusuke KOMETANI\*

The goal of this paper is to answer the question: “What kind of service is the ‘information and Systems in Education Map?’” This paper hypothesized some personas of stakeholders in JSiSE and their issues, and proposed use cases to solve these issues. The purpose of definition of personas is to refine the use cases through future opportunities for real-time interaction, and to create a map that improves the UX of JSiSE.

キーワード：教育システム，コミュニティの内発的発展，要件定義，UX デザイン，デザイン思考，DX

### 1. はじめに

『「教育システム情報学マップ（information and Systems in Education Map；以下，“iSE マップ”と略記）とはどのようなサービスであるか？』に答えることが本稿のゴールである。

教育システム情報学には、「教育」「システム」「情報」という三つのキーワードが含まれており、言葉の意味に揺らぎがあり、学問としての独自性が自明ではない。そこで、教育システム情報学会（以下、JSiSE と略記）と他学会との比較を通じて、教育システム情報学の独自性を仮定したうえで、論を進めたい。

2021年11月27日時点で、日本学術学会協力学術研究団体の登録数は1,570団体である<sup>(1)</sup>。このことから各学会を一つ一つ詳細に理解し、比較して位置づけることは困難である。一方で、学会の団体名称は、学会の特徴を集約したものであることから、団体名称をヒントとして独自性を評価することとした。

表1は、日本学術学会協力学術研究団体を対象にして、名称にキーワードを含む団体の数を数え上げ

たものである。団体名称だけから単純に判断すると、JSiSEの独自性は、「教育システム」にあると読み取れる。JSiSEの前身がCAI（Computer Assisted Instruction）学会であり、「Instruction」に主軸があったことも踏まえると、「情報システム」ではなく「教育システム」に重きをおいているとして矛盾はない。そこで、JSiSEの独自性は、実践のなかにおいて教育システムを記述し、コントロールし、より高次の教育システムへと変革できるところにあるものとみなす。

表1 名称にキーワードを含む団体の数

キーワード	団体数
教育	104
システム	17
情報	27
教育 & システム	1 (JSiSEのみ該当)
システム & 情報	4
教育 & 情報	2

\* 香川大学創造工学部／情報メディアセンター（Faculty of Engineering and Design, Kagawa University/Information Technology and Media Center）